

尼崎の森中央緑地のメリケントキンソウ対策

石丸京子・岡花泉見（尼崎の森中央緑地パークセンター）

1. 尼崎の森中央緑地とは

兵庫県立尼崎の森中央緑地(以降、尼崎の森)は、尼崎市の臨海部工場跡地の埋立地に作られた県立の都市公園で、2006 年から「生物多様性の創出」を目指した「100 年の森づくり」を、多くの県民、企業、学校などの参画と協働のもとに進めています。周辺地域（武庫川、猪名川流域）に自生する植物から、タネを採取して育成した「地域性苗」のみを植栽し、地域の多様な植生を創出することを目指しています。森づくりをはじめて今年で 20 年目の現在、約 10 万本の苗木を植栽し、これまでに草本木本合わせて 503 種以上のタネを採取し、308 種を植栽しています。



図1 現在の尼崎の森中央緑地



図2 100年後の完成予想図

2. メリケントキンソウについて

日本では和歌山県で1930年に発見された、南アメリカ原産の1年生の帰化植物です。キク科の1年草で、草丈は5～10cmと低く、地面を這うように生えています。公園、河川敷、ゴルフ場などの日当たりの良い場所に生える植物です。花は頭花と呼ばれる小さな花の集まったものですが、1個1個の花は実（瘦果）になると大きな棘があり、カブトガニのような形になります。



図3 早春のメリケントキンソウ

3. 尼崎の森のメリケントキンソウ対策

尼崎の森には合わせて3.7haの大きな芝生広場があります。約10年前からメリケントキンソウの生育を確認しました。この約5年で芝生広場全体に広がり、特に遊具のある芝生地に、多く生育していました。小さな子どもが裸足で遊ぶことなどが考えられ、特に多く生育していた芝生地に4年連続で除草剤（イネ科選択剤；スコリテック液剤）を散布しました。この結果確

認されたメリケントキンソウは少なくなりましたが、根絶はできませんでした。

このため 2024 年 3 月 1 日に、環境学習にきた尼崎市内の中学生 134 名にメリケントキンソウの除草活動を手伝ってもらいました。また 3 月 9・10 日に実施した森のマルシェのイベント参加者の親子 449 名に、メリケントキンソウの除草をしてもらいました。

メリケントキンソウを初めて見る人達も、カニフォークを手に芝生をじっと見ていると、目が慣れてきて、どんどん見つけれるようになりました。メリケントキンソウをカニフォークでスポスポと抜いていくのも、癖になるみたいで、参加者の皆様は熱中して、除草をしてくれました。



図 4 中学生による除草活動



図 5 除草されたメリケントキンソウ

4. 今後の課題

尼崎の森は「生き物いっぱいの森」を目指しています。厄介な外来種であるメリケントキンソウはいなくなっしてほしいけれど、薬剤を撒き続けるには、他の生き物にも害があることから、尼崎の森中央緑地は、来園者などの皆様の力を借りて、少しでもメリケントキンソウの量を減らしていくように、除草を続けていきたいと考えています。